

伊手小学校の校舎改築が完了

新校舎で伸び伸び学習

昨年4月から工事が進められていた伊手小学校の校舎改築が完了。2月17日には市や学校、地区の関係者ら約40人が出席し、待望の定礎式が行われました。新校舎は木材を多用し、広く明るい雰囲気。構内情報通信網(LAN)などの先端技術も導入されています。児童たちは伸び伸びと学習できる環境の中で、今月11日から学校生活を楽しんでいきます。

広く明るい新校舎

伊手小学校の新校舎は、敷地面積の都合上、旧校舎を解体した跡地に建てられました。建物の構造は鉄筋コンクリート造り2階建てで、延べ床面積

は2312平方メートル。木材を多用し、明るく、温かみのある建物です。

新校舎は1階に普通教室2室、多目的ホール、視聴覚室兼コンピュータ室、郷土資料室などがあり、2階には普通教室4室と音楽室、図書室、理科室、図工室などが設けられています。普通教室は多くの自然光を取り入れるよう全室が南側に面しており、児童たちが伸び伸びと学べる環境が整っています。

スタンドグラスも使用

学年を超えた多人数での授業に利用できる多目的ホールは、スタンドグラスをはじめ込み、2階部分を吹き抜けにした開放感あふれる造りです。郷土資料室は地元の歴史資料を所蔵するほ



スタンドグラスがはめ込まれた多目的ホール(上)木材の多用で温かみのある校舎内(左)



2月17日の定礎式で定礎板を打ち込む及川勉市長

昨年2月から工事が進められていた市防災センター・消防庁舎の建設工事が完了。3月4日には市や消防関係者ら約40人が出席し、待望の定礎式が行われました。市民の防災意識を高める防災センターとしての機能と消防庁舎としての機能とを併せ持つ「防災拠点施設」が誕生。現消防庁舎からの移転作業を経て、今月20日に開庁式を行い業務を開始します。

防災拠点施設の誕生

市防災センター・消防庁舎は、市庁舎敷地内の西側に建てられました。建物の構造は鉄筋コンクリート造り3階建てで、延べ床面積は1724平方メートル。総事業費は約6億1400万円です。

同センターは、現消防庁舎が建築後30年以上も経過し、著し

く老朽化が進んでいたことに加え、市民の防災意識の高揚や災害時における応急活動、情報管理等の防災機能を充実強化することを目的に新設されました。

大規模な災害発生時の一時避難場所としての開放や、緊急時に必要な食糧や防災資機材を保管する備蓄庫も設置されており、消防機能と防災機能とを併せ持った防災拠点となる複合施設が誕生しました。

防災機能を充実強化

1階には大規模災害時に被災者の一時避難場所として開放するため、広くスペースをとって設けた消防車両車庫、被災時に迅速な救急救命や被災者対応に当てるため、防災資機材備蓄室

と救急消毒・処置室を設置しました。また建物西側の防災センター玄関付近は、消防車両が出勤する際に、左右の安全を確認できるようにガラス張りとなりました。

2階は防災に関する書籍などをそろえた書庫を設けており、防災関係のことを学習することができます。

3階には消防本部の事務室のほか、防災情報通信機械室を設置し、災害時の情報収集や伝達、広報機能を充実させ、市民に迅速で正確な情報を提供していきます。また市民・防災団体などの防災学習や研修、救急実技講習などの活動に利用できる防災研修室も設置しています。

建物の外壁は隣接する市庁舎と同等のもので仕上げ、施設の調和が図られています。また建物の屋上には消防隊員の訓練場なども設けられています。



▲3月4日の定礎式で定礎板を打ち込む及川勉市長

防災センター・消防庁舎建築工事が完了

「防災の拠点」が誕生

消防車両の車庫はスペースを大きく取り、災害時には被災者の一時避難場所として開放されます

